

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

令和5年度病虫害発生予報第1号を下記のとおり送付します。

連絡先 石川県農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部 病虫害防除室
電話 076-257-6972 (直通)
FAX 076-257-9140
E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp

病虫害発生予報第1号 (予報期間：4月下旬～5月中旬)

予報内容

水 稲

イネミズゾウムシの発生は**並**と予想される。箱施薬していない圃場では、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

麦 類

大麦赤かび病の発生は**並**と予想される。出穂前後の降雨は発生を助長するので、出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を実施する。

大麦うどんこ病の発生は**多**と予想される。急進展するようであれば防除を実施する。

大 豆

タネバエの発生は**やや多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

果 樹

カキ炭疽病の発生は**やや多**と予想される。孢子飛散は4月下旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野 菜・花 き

コナガの発生は**やや多**と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

**病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止に留意する。**

気象予報

1か月予報（4月6日付け 新潟地方気象台）

予報期間：4月8日～5月7日

[確率予報]

気 温	低 い 20%、	平年並 30%、	高 い 50%
降 水 量	少 ない 30%、	平年並 30%、	多 い 40%
日照時間	少 ない 40%、	平年並 30%、	多 い 30%

[概要]

1か月予報

期間の前半を中心に暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

- ・ 4月8日（土）～4月14日（金）

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

- ・ 4月15日（土）～4月21日（金）

天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気が流れ込みやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

- ・ 4月22日（土）～5月5日（金）

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

イネミズゾウムシ

発生時期 本田侵入盛期は5月4半旬以降
発生量 並
予報の根拠 (1) 前年の発生はやや少 (-)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 箱施薬していない圃場では田植え後のほ場巡回に努め、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

イネドロオイムシ

発生時期 成虫の本田侵入盛期は5月下旬、幼虫発生盛期は6月中旬
発生量 並(成虫)
予報の根拠 (1) 前年の発生は少 (-)
(2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項 (1) 箱施薬の実施に努める。
(2) 箱施薬していない圃場では、1株当たり1卵塊以上認められる場合、直ちに防除する。

イネヒメハモグリバエ

発生時期 5月下旬以降
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 気温は高い (-)
防除上の注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。
(2) 深水管理は発生を助長するので留意する。

2 麦類の病害虫

大麦赤かび病

発生時期 4月下旬以降
発生量 並
予報の根拠 (1) 前年の発生は少 (-)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項 (1) 高温時の降雨は発生を助長するので留意する。

大麦うどんこ病

発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生は多 (+)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項 (1) 急進展するようであれば防除を実施する。

3 大豆の病害虫

ネキリムシ類（カブラヤガ・タマナヤガ）

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数は少（－） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。

タネバエ

発生時期	5月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 気温は高い（＋） (2) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。 (2) 有機物を施用した圃場は発生が多くなるので注意する。

4 果樹の病害虫

ナシ黒星病

発生時期	5月中旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は並（±） (2) 気温は高い（－） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。

ナシ黒斑病

発生時期	5月中旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少（－） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 袋かけ前の防除を徹底する。

ブドウ灰色かび病

発生時期	4月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 気温は高い（－） (2) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

カキ炭疽病

発生時期	新梢の発病は5月上旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや多（＋） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）

防除上の注意事項 (1) 胞子飛散は4月下旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ハダニ類

発生時期 増加期は4月中旬以降

発生量 多

予報の根拠 (1) 前年の発生は多 (+)

(2) 気温は高い (+)

防除上の注意事項 (1) 防除は発生源となる下草を刈り取った後に実施する。

(2) 抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

5 野菜・花きの病害虫

トマト灰色かび病

発生時期 連続発生

発生量 少

予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)

(2) 気温は高い (-)

(3) 降水量はほぼ平年並 (±)

防除上の注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。

(2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

トマト葉かび病

発生時期 増加期は5月下旬以降

発生量 少

予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)

(2) 気温は高い (-)

(3) 降水量はほぼ平年並 (±)

防除上の注意事項 (1) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

(2) 肥料切れの圃場に発生しやすいので、適正な施肥を行う。

スイカ褐斑細菌病

発生時期 増加期は5月下旬以降

発生量 並

予報の根拠 (1) 育苗期の発生は少 (-)

(2) 気温は高い (+)

(3) 降水量はほぼ平年並 (±)

防除上の注意事項 (1) トンネル除去時の防除を徹底する。

(2) 圃場排水に努める。

キュウリ灰色かび病

発生時期 連続発生

発生量 やや少

予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少 (-)

(2) 気温は高い (-)

(3) 降水量はほぼ平年並 (±)

- 防除上の注意事項
- (1) 発生初期の防除を徹底する。
 - (2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

ネギさび病

- 発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠
- (1) 現在の発生は少（－）
 - (2) 気温は高い（＋）
 - (3) 降水量はほぼ平年並（±）
- 防除上の注意事項
- (1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。
 - (2) トンネル除去時の防除を徹底する。

キク白さび病

- 発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠
- (1) 現在の発生はやや少（－）
 - (2) 気温は高い（＋）
 - (3) 降水量はほぼ平年並（±）
- 防除上の注意事項
- (1) 定植直後の防除を徹底する。

アブラムシ類（野菜・花き全般）

- 発生時期 急増期は4月下旬以降
発生量 並
予報の根拠
- (1) 現在の発生は少（－）
 - (2) 気温は高い（＋）
- 防除上の注意事項
- (1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

ネキリムシ類（カブラヤガ・タマナヤガ）

- 発生時期 増加期は5月下旬以降
発生量 並
予報の根拠
- (1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数は少（－）
 - (2) 気温は高い（＋）
- 防除上の注意事項
- (1) は種時又は定植時の防除を徹底する。
 - (2) ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

コナガ（アブラナ科野菜）

- 発生時期 4月下旬以降
発生量 やや多
予報の根拠
- (1) 現在の発生は並（±）
 - (2) 気温は高い（＋）
- 防除上の注意事項
- (1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。